

ご存じですか！文化財

91

「寛保二年水難供養塔」

市指定史跡 平成16年3月8日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



中ノ目 946 (中ノ目橋北)

市内でも甚大な被害をもたらしたカスリーン台風から今年で70年。当地はこれまで多くの水害に見舞われてきました。その歴史を物語る証として、見沼代用水が流れる種足の中ノ目橋のたもとに、石塔があります。

この石塔は、江戸時代中期の寛保2(1742)年の大洪水で亡くなった人々を供養するために、安永3(1774)年に造立された水難供養塔です。正面に「施餓鬼供養塔」、左側面に亡くなった20人の戒名、右側面に被害の惨状が生々しく刻ま

れています。

寛保2年7月27・28日と雨が降り続き、8月1日の夜中に大雨となりました。翌2日の朝には、北河原村(現行田市)地内の堤防約360メートルにわたって決壊、志多見の阿良川地内では、水除け堤が約90メートルにわたり決壊しました。利根川をはじめとする多くの河川の水が溢れ、被害は江戸までおよんだということです。

治水対策がまだ不十分であった江戸時代の水害は、利根川をはじめとする大小の河川に囲まれて暮らす人々にとって、より脅威であったことでしょう。先人たちの思いが石に刻まれ、水害の歴史が今日に伝わる供養塔です。

